

を耳もとで左右に振る。

涼しい 「秋」を見よ。

進む (イ) 隊列が進む。「遠足」の手まねを活発に前へ進ませて行く。(ロ) 進む(技術の上達)。「上達」の手まね。(ハ) 文化が進む。「進歩」の回の手まね。

ステッキ 「杖」をつく身振り。

既に 五指の指頭を下にさし掌を内側にだらりと垂れた両手(幽霊の垂れた手)を素速やに左右に振る、「ええ?、もう?」と驚いた身振り。

素的 大へん良いと云う意味なのだから、「良い」の手まねを両手に大袈裟にする。即ち、両手を前後に重ねて、「てんぐ」を更に高く表わす。

ストライキ 「戦う」と同じ手まね。

素直 「正直」と同じ手まね。

凡て 掌を下に向け五指の指頭を前方にさ

した両手を左右につけ合わせ(両手の親指が付く)てから、両手を左右に離し何れも下へ弧を描いて降して行き(自然に両手の掌は上向きになる)再び下で両手を合わせる(両手の小指が付く)即ち両手で一つの全き円を描いたことになり、「凡て」「みんな」となる。

統べる 五指の指頭を前方にさし、掌を下に向けた両手。夫々左右斜め前方にさし出してから、徐々に左右から相寄らしめながら、掌を向い合わせ(右の掌は左側にし、左の掌は右側に向け)それと共に両手の五指を折り曲げて行って最後に握り拳にして、胸の前で上下に重ねる。凡てのものを集め束ねることになる。(イ) すべすべする。五指の指頭を上

にさしに掌で頬を塗り上げる。(ロ) 広がる。左の手甲の上を右手の掌をのせ前へ送り出させる。

スポン 両手で一方の脚を円筒形に囲み上

へ穿くように上げる。

住居 「住む」(居る)——家。

すまないことをした 「御免御免」と同じ
手まね。

済む 「終り」と同じ手まね。

済ます 左手掌の上に、右手の人差指の指
頭で字×を描く。

速やか 「少し」の手まねの手の姿態のま
まで(掌を上向け小指薬指中指の三指を折り
曲げ、指頭を上にした人差指の先僅か下に
親指の指頭をつけ)手首を軸にして掌を上
下に早やく動かせる。

住む 「居る」と同じ手まね。

相撲 握り拳にした両手で、左右夫々の膝
を交互にたたく。

炭 「黒い」の手まねをして、人差指と親
指で輪にした両手を左右に間隔をおいて並ら
べてから左右に離して行き横に棒状形を描

く。

掃るい 「狡猾」と同じ手まね。

刷る 「印刷」と同じ手まね。

坐る 右手の人差指と中指で人間の二本の
脚としてその二指を左手掌の上で坐るように
曲げて置く。

セ

税 収入——部(左掌の上斜めに右人差指
の指頭で線を描く)——役所——金を出す。

誠意(誠実) 正直——心——さし出す(両手に
て前に捧げる身振り)。

正確 間違いない——はっきり。

性格 心——癖。

生活 生きる——毎日。

精勤 一生懸命——働く(仕事)。

生計 毎日——食べる——金銭。○絵を描いて